

新学習指導要領に示された

「持続可能な社会」の実現のために ～「持続可能な開発のための教育（ESD）」の推進～



広島県教育委員会

1 「持続可能な開発のための教育」の基本的な考え方

持続可能な開発とは、将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすような社会づくりのことを意味しています。世代間の公平、地域間の公平、男女間の平等、社会的寛容、貧困削減、環境の保全と回復、天然資源の保全、公正で平和な社会などが持続可能な開発の基礎となっており、環境の保全、経済の開発、社会の発展を調和の下に進めていくことが持続可能な開発です。

持続可能な開発のためには、私たち一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革することが必要であり、そのための教育が「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development)です。

(「わが国における『国連持続可能な開発のための教育の10年』実施計画」より)

この「持続可能な開発のための教育」の考え方は、平成20年3月告示の学習指導要領(高等学校及び特別支援学校は平成21年3月告示)においても、各教科等の目標や内容に取り入れられています。

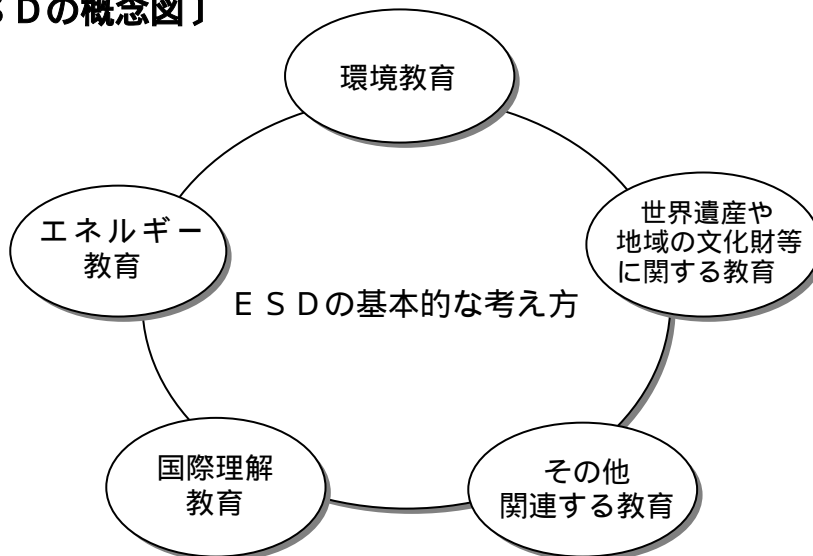
なお、この「持続可能な開発のための教育」(以下、「ESD」と呼びます)は、日本ユネスコ国内委員会の提言を受け、「持続発展教育」と略称され使用されています。

2 ESDの目標

- すべての人が質の高い教育の恩恵を享受すること
- 持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれること
- 環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような行動の変革をもたらすこと

(「わが国における『国連持続可能な開発のための教育の10年』実施計画」より)

〔ESDの概念図〕



関連する様々な教育を“持続可能な社会の構築”の観点からつなげ、総合的に取り組む必要があります。

新しい学習指導要領における E S D に係る主な内容（例）

環境教育

<小学校>（生活）

身近な自然を観察したり，季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして，四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心を持ち，自分たちの生活を工夫したり，楽しんだりできるようにする。

<中学校>（理科）

自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し，持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。

<高等学校>（家庭基礎）

生活と環境とのかかわりについて理解させ，持続可能な社会を目指してライフスタイルを工夫し，主体的に行動できるようにする。

国際理解教育

<小学校>（外国語活動）

日本と外国との生活，習慣，行事などの違いを知り，多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。

<中学校>（道徳）

世界の中の日本人としての自覚をもち，国際的視野に立って，世界の平和と人類の幸福に貢献する。

<高等学校>（世界史 A）

現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ，歴史的観点から資料を活用して探究し，その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して，世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。

世界遺産や地域の文化財等に関する教育

<小学校>（社会）

我が国の歴史上の主な事象について，人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財，資料などを活用して調べ，歴史を学ぶ意味を考へるようになるとともに，自分たちの生活の歴史的背景，我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

<中学校>（美術）

身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産などを鑑賞し，そのよさや美しさなどを感じ取り，美術文化に対する関心を高めること。

<高等学校>（日本史 B）

遺跡や遺物，文書など様々な歴史資料の特性に着目し，資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解させ，歴史への関心を高めるとともに，文化財保護の重要性に気付かせる。

エネルギー教育

<小学校>（理科）

乾電池や光電池に豆電球やモーターなどをつなぎ，乾電池や光電池の働きを調べ，電気の働きについての考へをもつことができるようにする。

<中学校>（技術・家庭）

エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みを知ること。

<高等学校>（物理基礎）

人類が利用可能な水力，化石燃料，原子力，太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用などについて，物理学的な視点から理解すること。

その他関連する教育

<小学校>（道徳）

だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正，公平にし，正義の実現に努める。

<中学校>（社会）

持続可能な社会を形成するという観点から，私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ，自分の考へをまとめさせる。

<高等学校>（国語表現）

相手の立場や異なる考へを尊重して課題を解決するために，論拠の妥当性を判断しながら話し合うこと。

3 ESDを通して児童生徒に身に付けさせたい力

ESDを通して、我が国や世界の未来のために、今できることを考える子どもを育てましょう。

1 環境の保全と経済の発展の両立を探究するなど、多面的・総合的に考えることができる

自然環境を守っていくことが大切である一方で、地域の人々が生活していくための環境整備も大切です。環境問題に限らず、簡単に答えが出ない問題を、様々な角度から考え、議論していくことを通して総合的に考えることができる力が求められています。

2 立場や考え方の違う人々を理解するとともに、相手を尊重しながら、協同的に課題を解決することができる

地球上では、異なる歴史や伝統、生活習慣をもつ人々がそれぞれの社会を形成して暮らしています。都市部と地方、先進国と発展途上国などで、立場や考え方が異なることも少なくありません。相手の考えを理解し、尊重しながら、議論していくことを通して協同的に課題を解決することができる力が求められています。

3 誰が取り組んでも持続するようなシステムを考え、構築に向けて主体的に行動することができる

一部の関心が高い人々しか協力してくれない方法では、多くの人々が参加し、将来の世代まで続くような解決策にはなりません。様々な考え方を持つ様々な人々が行動しても、問題が解決に向かうような「システム」の構築に向けて、議論していくことを通して主体的に行動できる力が求められています。

学校で取り組める時間（例）

<p>小学校高学年 総合的な学習の時間(国際理解教育)</p> <p>世界には飢えで苦しんでいる人たちがたくさんいるよ。</p> <p>私たちに何ができるかな。</p> <p>日本はたくさんのお金を援助しているわ。</p> <p>食べ物を自分の国で作ることができるようにならないかな。</p>	<p>中学校理科(第1分野) 「エネルギー資源の利用」</p> <p>太陽光エネルギーは無限で、発電時に排出する物質もないから、太陽光発電システムをもっと導入すべきだ。</p> <p>太陽光発電システムは、光電池が高価な上に大量の電力はつくれないし、発電量が天候に左右されてしまうわ。</p>
<p>高等学校地理歴史科(地理B) 「熱帯林の破壊」</p> <p>熱帯林の減少は、地球規模の気象環境に影響する深刻な問題。熱帯林の伐採を中止すべきよ。</p> <p>熱帯林という自国の資源を利用して、国民の経済的な豊かさを享受するのは当然のことだよ。</p>	

学校における取組み事例

海田町立海田東小学校

全学年で、学校脇の唐谷川を学習素材に環境学習に取り組み、そこで得た豊かな体験をもとに言語活用能力と論理的思考力を育てる実践を展開している。実際に川に入り、指標生物を採集して川の汚れ具合を調べたり、源流までさかのぼって川の様子を調べたりして、川の生き物とその特徴、四季の変化などに気付き、データを用いて多面的にまとめるなど、教科で培った力を活用している。その結果、自然環境に対する興味や関心が高まり、地域の環境保全に心を砕く児童が育っている。



「生きものフレンズ」に所属するメンバーが、自主的に地域を探索し、自分たちの観測データをもとに環境の変化と保全の重要性を発信するなどの活動も行っている。

大竹市立栗谷中学校

「つながり」と「参加」をキーワードに、地域の自然を調べる学習、農作業の体験、地域に住む外国人との交流などの活動を、保育所・小学校の園児・児童とともに協力して実践した。「水といのち」の学習では、カワシンジュガイの宿主であるヤマメを放流し、水やダムを調査を継続しながら、カワシンジュガイのすむ生態系を取り戻そうという取り組みを行い、そのことが「ダムの功罪と地域の水環境」という課題研究となり、「世界子ども水フォーラム全国大会」への参加となった。発電用ダムの建設で人間の生活は豊かになったが、その一方でそれまでの生態系が崩れていることを身近な地域の調査から学び、豊かな生活と豊かな自然を両立するために自分たちにできることは何かを
考えることができた。



広島大学附属高等学校



環境・経済・政治・文化などの複数の視点から教科を超えて事象を分析し、総合的に物事を判断し、生徒に「希望の未来」を示すような協同の授業を実践している。理科と公民科の協同授業では、「持続可能な開発の発想を育成する化学の授業 - バイオディーゼルの可能性」を実践した。

その結果、生徒は、バイオディーゼルについて、燃焼効率や環境への影響という自然科学的側面と、価格や生産効率といった社会科学的側面の両面から捉え直すことができ、複合的な思考を生み出すことができた。また、グローバルな課題に出会ったときに、複数の視点をもたなければならぬことへの認識が生徒の中に生まれた。

4 ユネスコ・スクールとESD

(1) ユネスコ・スクールとは

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校のことです。

ユネスコはESDの主導機関であり、文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコ・スクールをESDの推進拠点と位置付けています。

(2) ユネスコ・スクール一覧

- <小 学 校> 福山市立内海小学校，大竹市立栗谷小学校，海田町立海田東小学校，北広島町立豊平東小学校，広島大学附属小学校
- <中 学 校> 大竹市立栗谷中学校，県立広島中学校，広島大学附属中学校，山陽女学園中等部
- <高等学校> 県立三次高等学校，県立広島高等学校，広島大学附属高等学校，山陽女学園高等部，県立広島国泰寺高等学校（申請中），県立呉三津田高等学校（申請中），県立尾道北高等学校（申請中），県立福山誠之館高等学校（申請中），県立広島井口高等学校（申請中），県立安芸府中高等学校（申請中）



<参考資料，ホームページ>

- 「わが国における『国連持続可能な開発のための教育の10年』実施計画」
（「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議）
- 「ユネスコ・スクールと持続発展教育（ESD）について」（日本ユネスコ国内委員会）
- 「ESD教材活用ガイド」（財団法人ユネスコ・アジア文化センター）
- ユネスコ・スクール公式サイト <http://www.unesco-school.jp/>
- 日本ユネスコ国内委員会 <http://www.mext.go.jp/unesco/>
- 内閣官房「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議 <http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokuren/>